平成２３年度　研修のまとめ

１　公開授業・協議会，日常の授業から

今年度から研究主題を「主体的に学習に取り組み，『分かる・できる』喜びを味わう子どもの育成」とし，「授業のユニバーサルデザイン」化に着目した授業実践を職員一人一人が行ってきた。「授業のユニバーサルデザイン」化とは，学習のレベルを落としたり，時間をかけて子どもの理解を促したりすることではない。同じ時間内でより効率よく，どの子にも基礎的・基本的な内容の確実な理解と定着を図るための方策である。今年度の授業実践を通して，「授業のユニバーサルデザイン」化の４つのポイントが見えてきた。

(1)学び方を指導する

学んだ内容を別な場面でも生かすことができれば，基礎的・基本的な内容の確実な理解と定着が図られたということである。そのために，指導者は学び方を子どもの実態に応じて身に付けさせていくことを大切にしなければならない。

具体的には「文章の読み方」「文章の書き方」「問題の解き方」「観察の仕方」「考察の仕方」「話し方」「聴き方」など，教科の特性や指導内容に応じた学び方である。身に付けさせる際にはポイントや例示をするなどの指導の工夫が大切である。

観察の仕方をかいた掲示物

物語の書き方を指導

(2)教材・教具の視覚化

子どもが活動をする際，教師が提示する教材・教具は，着目させたい点がよく分かるように視覚化することが大切である。

例えば，スーパーマーケットのチラシを加工して比較できるようにする，手順や大切なことを言葉だけではなくイメージ（映像，図，実物など）でも示す，文章構成が分かるように色分けをしたワークシート，複合図形を分けて切ったり，つけたして考えたりしやすい方眼入りのワークシートを活用するなどである。そうした子どもの理解を促す教材・教具の視覚化が大切である。

チラシを比較できるように加工

切符を買う手順を示す

(3)子どもの考え方や学習したことを共有させるペア・グループ学習

ペア・グループ学習で，子どもが考え方を共有しながら学習内容を身に付けたり，身に付けた内容を確認し合ったりすることがが大切である。このことは，子ども一人一人の授業への参加を促すとともに，言語活動による思考力，判断力，表現力の育成にもつながっていく。

学んだことをペアに説明

ペアで話し合って解決

(4)学ぶ土壌をつくる指導技術

１時間の授業の中で教師が指導法や教材・教具を工夫することだけが，子どもの「分かる・できる」を具現するのではない。継続した指導により子どもを鍛え，よりよい学習の構えや学び方を身に付けさせておくことが大切である。

例えば，課題に時間を決めて取り組ませることで，与えられた時間の中で集中して活動しようとする力が鍛えられる。また，発言力のある子だけで授業を進めるのではなく，列指名を取り入れる。そうすることで，子どもの中に適度な緊張感が生まれ，授業に集中させることができる。教師が発言の仕方を評価し，価値付けることで，一人一人の発言力も育まれる。ペア・グループ学習をさせる際も，望ましい話し合いの仕方を日々の授業の中で育んでおく必要がある。

２　学習意欲や理解度を見る意識調査による評価

今年度の研究の成果を，児童・保護者アンケートの結果から考察する。

(1)学校評価アンケートの結果（児童）

	児童に対するアンケート項目	肯定的回答率	
		１学期	２学期
1	１週間に何日くらい家庭学習をしますか（４～５日以上の率）	９４％	９５％
2	普段１日どれくらい家庭学習をしますか（平均家庭学習時間）	５３分	５２分
3	授業に一生懸命取り組んでいますか	９５％	９７％
4	学校で学習していることが生活に役立つと思いますか	９４％	９５％
5	国語の授業の内容が分かりますか	９３％	９４％
6	社会の授業の内容が分かりますか	８９％	９４％
7	算数の授業の内容が分かりますか	８９％	９２％
8	理科の授業の内容が分かりますか	９６％	９８％
9	学校以外で１週間にどのくらい読書をしますか（２～３日以上）	８１％	８６％

(2)学校評価アンケートの結果（保護者）

	保護者に対するアンケート項目	肯定的回答率	
		１学期	２学期
1	学校では適切な学習指導が成されていると思いますか	９４％	９７％
2	お子さんは家庭学習に一生懸命取り組んでいますか	８０％	８７％
3	お子さんと学習のことについて話すことがありますか	９４％	９５％
4	お子さんは読書をしていますか	６４％	６９％

(3)アンケートの結果から

学習に関わるほとんどの項目で，１学期末に比べて２学期末の数値が向上している。これらの数値は昨年度に比べても高い数値となっている。保護者のアンケートからも，子どもたちの学習や学校の取組に対する肯定的回答率が高くなっている。

各クラスで「どの子も『分かる・できる』」を目指した授業改善を継続的に行ってきたり，保護者に対して見附小学校の学力向上の取組を説明してきたりした効果が表れたものと考察する。今後もこれらの数値が 100 %に近付くように，取組を継続・改善していく。

３　全国学力調査等の各種テストの結果分析による評価

今年度の研究の成果を，各種テストの結果から考察する。

(1)全国学力調査の正答率

見附市の平均と比較では，学年全体として，知識・技能の定着，知識・技能を活用する力の育成について，概ね満足できる状況である。

	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ
見附小学校	**８５．６**	**５３．１**	**８５．７**	**５２．１**
見　附　市	８１．３	４５．４	８３．８	４６．５
ポイント差	＋４．３	＋７．７	＋１．９	＋５．２

(2)県小教研学力テストの正答率

一方，７月に実施した県小教研学力テストでは，全体的に県の平均を下回る結果となった。この結果から，思考力，表現力の育成が課題として上がった。この結果を踏まえ，各学年で表現力を高める授業改善を行った。

	４年		５年		６年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
見附小学校	**59.8**	**51.7**	**62.1**	**63.6**	**64.8**	**60.3**
新　潟　県	66.4	58.4	69.4	72.3	67.8	59.5
ポイント差	-6.6	-6.7	-8.3	-8.7	-3.0	+ 0.8

(3)各種テストの結果から

全国学力調査の値が満足できる状況にあることは，これまでの６年間の指導の成果でもある。しかし，上記の県小教研学力テストの結果，Web 配信問題の結果が学校全体として県平均程度である実態を踏まえると，今後の学力向上に対する課題も多い。特に，子どもの思考力，表現力を６年間を見据えて育んでいくことが課題である。

ＮＲＴテスト，県小教研テスト，全国学力調査，Web 配信問題，学年テスト，単元末テストなど，各種テストの意味，位置付けを総合的に検討し，分析・指導に生かして一人一人の学力を向上させていく。

４　次年度へ向けて

今年度の研究を通して，各教室で「授業のユニバーサルデザイン」化が図られるようになった。子ども一人一人の「分かる・できる」を目指し，日々の授業の改善を進めてきたことが，児童・保護者アンケートや全国学力調査の結果として表れた。しかし，県小教研学力テストの結果に見られるように，まだまだ十分な成果が得られているとは言えない。今年度の実践を土台として，次年度も本年度の研究を継続するとともに，以下の点を踏まえながら取組を改善していきたい。

○「授業のユニバーサルデザイン」化のポイントが見えてきたが，それは子どもの実態に応じたものでなければならない。各学級の子どもの実態や育ちをよく分析した上で，より効果のある「授業のユニバーサルデザイン」を考えていく。

○共同研究として，「授業のユニバーサルデザイン」化の視点とその具体化について，研究をしぼって取り組んでいく。県小教研テスト等で明らかになった課題から，読み取ったことを基に，適切に表現する力を高めるための「授業のユニバーサルデザイン」の開発・工夫に重点を置く。

○各種テストを分析し，各学級・学年の課題や目標，そのための取組を明確にする。そのために，「チャレンジタイム」や家庭学習の方針についても共通理解し，家庭と全職員が一体となった取組を確実に実行できるようにする。